

## 香るイグサ 涼感の通り道



瀧山雄一さん作の倉敷緞通 縦115 $\times$ 横60 $\times$ で税抜き1万8千円。3畳サイズから小さいものは花瓶敷きサイズもある。問い合わせは民芸店「手しごと」(電話03・6432・3867、火曜定休)。外山亮一撮影

「暑い」と思う季節になりました。涼しさを感じられるものが欲しいと思う方もいるのではないのでしょうか。紹介するのは「倉敷緞通」と呼ばれる敷物です。

岡山県倉敷市はイグサの産地で、昔からイグサを使った敷物がありました。倉敷紡績(クラボウ)の2代目社長で大原美術館を開館した大原孫三郎が、昭和初期にイグサを用いた新しいものを作ろうとしました。

そうして生まれたのが倉敷緞通です。

大原は、民芸運動を興した柳宗悦に相談を持ちかけました。当時は無地の物しかなかったのですが、柳は染色家の芹沢銈介に図案の作成を依頼し、今に続く縞柄ができて

ました。素材にはイグサのほか、レーヨンや麻が使われています。

倉敷緞通は1950年代後半から60年代にかけて最盛期を迎えました。ただ、その後は原料価格の高騰などが原因で、86年に生産が中止されました。

92年に復興を目指す動きがあり、手を挙げたのが当時22歳の瀧山雄一さんでした。瀧山さんは芹沢が残した柄を使いつつ、様々なサイズを生み出しました。

暑いときには縁側に敷いて寝転がるとイグサのいい匂いもして、涼しさを感じられます。私は玄関マットとしても使っています。

（手仕事フォーラム代表

久野恵一）

## そばに置きたい

